Business now（ビジネス）scene#70

タニダ株式会社（島根県松江市）

タニダ㈱（松江市乃木福富町、谷田英人社長、☎0852・27・1333）は、山陰地域を拠点とする老舗のラベル印刷会社だ。平圧機から凸版間欠機、凸版輪転機、オフセット間欠機にデジタル印刷機まで、印刷機は種類豊富に設備。加工機や周辺装置を含めると約20種40台の設備を構える同社は、とりわけ特殊な印刷と加工を得意としている。特にマスキングテープをはじめ、ファンシーシールなど文具系の商品の製造においても強みを発揮するなど、独自のビジネスモデルを歩み続ける。足元の動静を中心にタニダのこれまで・いま・これからについて、業務部の阿式良信部長に話を聞いた。（上田）

創業時の〝遺伝子〟護り、創る「これから」

阿式　良信　部長

――会社概要を

「1952年に谷田図書製本所として松江市内に創業しました。73年にシール印刷部門を設立、88年に現社名となり、その後98年に現在の工業団地に拡張移転しました。シール・ラベル印刷を主体とする印刷会社として創業から73年を数えます。拠点は本社工場をはじめ、東京と大阪に営業所を構えています」

――タニダの強みや特徴については

「当社は中小規模事業者なので、大量生産大量消費の受注を請け負う大手にはかないません。ですからわれわれが狙うのは、大手が手を出さないようなニッチな世界。小ロットや多品種、あるいは短納期受注で小回りよく請け負うことに加え、特殊印刷加工技術を得意としています。改良を施した加工機や珍しい多色の印刷機を設備して、社内で粘着加工を行うなどして独自性を発揮。特殊印刷物の発注に併せて一般的なシール・ラベルのお仕事もいただく、といった形でこれまで事業を広げてきました」

――そこからどのように

「先述の通りタニダは東京と大阪に営業所を構えていますが、当初われわれは太刀打ちできません。これに対してわれわれは当初、中国で製造して輸入し納品するスタイルでした。そのうちに『小ロットで作りたい』『国内生産がよい』というご要望が増え始めました」

営業先は同業者、特殊印刷加工で

――「オフ品質」評価して

――デジタル印刷機の導入はいつから

「エプソンの『SurePress L-4033AW』を今から8年前に導入しました。先述の通り、われわれは多品種小ロットや短納期への対応力を持ち味としておりますので、導入する以前から当社にふさわしいデジタル印刷機はないものかと探しておりました。実際候補はいくつかありましたが、最終的に同機を選択しました」

――詳しく伺いますと

「小ロット向けにはSurePressを使用しているからです。具体的には、500巻以下だと当社ではSurePressで印刷を行い、それ以上の場合はオフセット間欠機を用います。こうした運用によって、小ロット対応や短納期対応にも柔軟に応じられる受注体制を構築しました」

「加えて最も大切なのが、先述の通りオフセット品質であること。仮に少量のリピート案件がきた場合、SurePressで対応したからといって以前納品したものと印刷品質が著しく異なってはいけません。マスキングテープの少量受注と国内製造というタニダの人気商品を作り出す場面で、現在も有効活用しています」

――このほかに評価した部分については

「オフセット品質を再現できる点でもう少し言及しますと、これまでオフで印刷して納めてきた案件が仮に少量になると、どうしても単価設定は高くなります。高くなったのに印刷品質が落ちた、ではお客さまは納得しません。大ロットの時はオフセットの見積りがきちんと成立するよう、同等の品質を維持できることは重要です」

「これに関連して、色安定性も評価しました。デジタル印刷機は特にリピート時に前回のものと色が合わないことがある、という話をよく耳にして、その点を懸念していました。SurePressについてはその心配がなく、リピート時も安定していました。そうした信頼性から、タニダでは2台目として『同L-4733AW』を2022年に増設しました」

――マスキングテープのトレンドなどありますか

「自社内製造を始めた8年前の時点では、毎年倍々の勢いで売り上げが伸長し続けていました。店頭にもさまざまな各社のマスキングテープが登場しましたが、需要はコロナ前がピークだったでしょうか。コロナ禍で少し落ち込みを見せるも、足元では再び戻り始めているような印象です」

「マスキングテープのトレンドですが、結論から申し上げますとベーシックがやはり人気です。レースのようなカット加工を施したものや香りのあるインキを使ったもの、SurePressで印刷機の運用を通じてヤレが減らせ廃棄物削減に寄与するなど、環境負荷を低減する運用効果がいくつもあります。こうして脱炭素化を進めたり、誰でも活躍しやすい機会を与えたり労働環境を改善したりしてSDGs達成を促進するなど、副次効果も期待できます」

――最後に展望を

「タニダの創業は、図書製本業をルーツとしています。そこで何をしていたのかというと、戦後の学校には図書館に本がない、あるいは破損している状況。モノのない時代に先代の社長が島根県内の小学校を回り、図書館の壊れた本の修理を行っていました。現在のSDGsの先駆けともいえる活動でした」

「モノを大切にする精神に、これから社会を担う人たちの基礎を支え、暮らしに貢献する精神。この先も社会は変容し事業環境も厳しくなりますが、こうした創業からの〝遺伝子〟を護ることが肝要。今ある事業とこれから創りあげる新しい事業をもっと大きな世界に誇れる事業に育てることで社会に貢献し、会社の繁栄と社員の幸福が調和する、唯一固有の健全企業を目指してまいります」

ネイルシール、マステ、ぷくぷくシールと文具日用品も得意

印刷機と関連加工機が 40 台超ならぶ生産現場

エプソンの「SurePress L-4033AW」（右）と「同 4733AW」の2台を切り回す女性オペレーター。発送工程業務からのコンバートだという

オフ品質「SurePress」2台設備
デジタル化は企業の必携

――可変印字強化の背景

――デジタル印刷機を利活用した案件について

「今積極的に提案しているのが、可変コードを生かしたラベルです。例えばナンバリングは、医療医薬分野のラベル向けだと特段珍しくありませんが、現在は食品分野にとどまらず一般向けにも一部ナンバリングで管理したいとする要望があり、実際受注しています」

「ロット管理以外にも、QRのようなユニークコードによるトレーサビリティー確保の用途。洋酒などの高級な消費財向けで特に多く見受けられます。こうした可変情報印刷ニーズの増加を感じています」

――当該需要へのタニダ流の印刷術などあれば

「可変印字はSurePressでという形で振り分けながら運用しています」

「可変印字が行えたとしても、印字したデータの整合性を担保して納品する必要があります。こうした理由から、シリウスビジョンの可変データの検査も行える全面検査装置も導入して運用しています」

――データ生成について

「可変データの生成ですが、エプソンさんに紹介してもらったプリプレスソフトウエア『STEPZ』を導入しました。従来はお客さまからPDFでQRコードのデータをいただき、それをラベルのデザイン内に組み込む作業プロセスで相当時間を要していました。同ソフトを運用することで、一連のプロセスに費やす作業時間が劇的に短縮しました」

「他方SMARTの方には可変コードの自動生成ソフトウエアがすでにありました。STEPZを導入したことで、大ロット用・小ロット用どちらも作業負担が少なく効率的な可変印字を迅速に処理できる体制が整いました。可変コードを生かしたラベルをウリにしているとの先ほどの話も、データ生成プロセスが整ったことが背景にあります」

――SurePressのオペレーションは

「現在、女性のオペレーター1人で2台動かしています」

――すごいですね、元々印刷機の経験者なのですか

「いえ印刷経験はまったくなく、発送工程の業務に就いていたスタッフでした。あるとき生産現場に人手が足らず『こういうのやってみる？』『空いた時間に覚えてみない？』と尋ねたところ、興味を示してくれたことがきっかけです。一般的なコンベンショナル機の場合は研修期間に半年近く費やし、一人前になるのに1年は要するもの。SurePressは操作さえ覚えれば、印刷未経験者であっても担当することができます。現在、直前のSurePress担当者はデジタルフィニッシャーの方にコンバートしました」

――課題や不満点は

「まずは印刷速度ですね。昔から一貫して、当社のエプソン担当者に『遅い』と訴えています。10倍にしろとは言わないものの、せめて現行の2倍にはしてもらいたいと。改善したら増設するよと言い続けてきましたが、印刷速度が2倍にならない代わりに当社のSurePressの台数が2倍になり、生産能力が2倍にはなりました（笑）」

「あとは使えない基材や不得意なメディアがあるという点。それでも4033から4733になって、多少改善が図られました」

「デジタル」が必携に――責社においてデジタル印刷機の立ち位置は

「一言で何か語るとしたら『これからの必需品』だと思います。印刷機の運用を通じてヤレが減らせ廃棄物削減に寄与するなど、環境負荷を低減する運用効果がいくつもあります。こうして脱炭素化を進めたり、誰でも活躍しやすい機会を与えたり労働環境を改善したりしてSDGs達成を促進するなど、副次効果も期待できます」

――最後に展望を

「タニダの創業は、図書製本業をルーツとしています。そこで何をしていたのかというと、戦後の学校には図書館に本がない、あるいは破損している状況。モノのない時代に先代の社長が島根県内の小学校を回り、図書館の壊れた本の修理を行っていました。現在のSDGsの先駆けともいえる活動でした」

「モノを大切にする精神に、これから社会を担う人たちの基礎を支え、暮らしに貢献する精神。この先も社会は変容し事業環境も厳しくなりますが、こうした創業からの〝遺伝子〟を護ることが肝要。今ある事業とこれから創りあげる新しい事業をもっと大きな世界に誇れる事業に育てることで社会に貢献し、会社の繁栄と社員の幸福が調和する、唯一固有の健全企業を目指してまいります」

デジタルフィニッシャーを運用

転職します。

総じて印刷業はものすごく不利な業態といえます」

「他方で募集形態をデザイナーやプランナーなどとカタカナで書くと『経験はないが大丈夫か』と色々問い合わせがあります。要は、印刷会社は旧来のアナログなままでは人は今後も集まらないということ。オフィスのような汚れのない綺麗な環境で、スマートフォンやパソコンを操作する感覚で印刷ができちゃいますと。インキツボをひねって色調整をせずとも画面上で簡単に色彩調整ができるデジタル機は、これからの必需品であり今後の主流。地方企業の当社にとってはそんな存在であり、今後デジタル化やDX化を加速させたい考えです。実際に印刷未経験のスタッフが1人で2台を切り回して活躍してくれており、デジタル印刷機にはそれが実現できる訳です」

――重要な指摘です

「のみならず、デジタルといえると考えます」

――というと

「当社だけではなく全国の製造業全般の共通課題だと思いますが、人手不足は深刻です。当社もオペレーターの募集をしていますが、問い合わせすらない状態。われわれも地元の高校にお願いして就職先にタニダを斡旋してもらっていますが、若い人材はなかなか定着しづらいですね。昔なら入社後数年はがんばろうとしましたが、今はテレビで転職のCMが大量に流れ、転職がもはや当たり前の時代。〝あっちの仕事の方が儲かる〟〝そんなに働いてブラック企業じゃないかと友達と情報交換して、少しでもよい条件を求めて

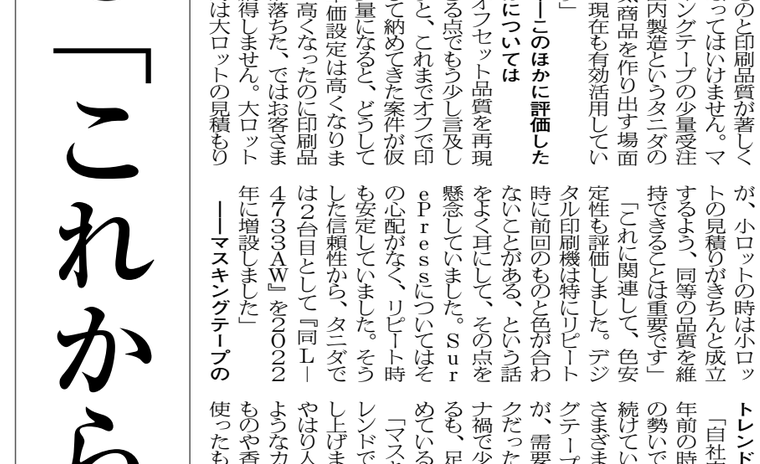
SurePressは、進化を止めない。

国内導入台数1位※。
現場が認めた高画質。

デジタルラベル印刷機　SurePress L-4733A/AW

※：ラベル新聞社編「日本のラベル市場2023」より　デジタル印刷機の印刷方式別構成比（2022年）インクジェット方式（水性）出荷台数からL-4533A/AW、L-4733A/AW出荷台数を算出した結果

UVインクならではの高い
表現力と生産性を両立。



デジタルラベル印刷機　SurePress L-6534VW

EPSON

製品に関するお問合せ・実機の見学予約※は
シュアプレス専用ダイヤル 03-5919-5258
受付時間 午前9:00～午後5:30（月～金曜日祝日・弊社指定休日を除く）

シュアプレス　検索
surepress.jp

無料印刷サンプル請求フォームはこちら
surepress.jp/sample

※見学は日野デモルーム（東京都）で行います。※この広告に記載の仕様、デザインは技術改善等により、予告なく変更する場合がありますので、予めご了承ください。

エプソン販売 株式会社

「シール・ラベル用デジタル印刷機」に関するアンケートに、ご協力ください！
アンケートにご回答いただいた方の中から抽選で3000円分のAmazonギフトカードをプレゼント！
3名に1人当たる！たった3問のアンケートです！
回答期限　2024年3月15日（金）まで
アンケートはこちらから
＊お一人様1回のエントリーとなります。複数回数ご回答いただきましても当選率は一律となります。
＊本キャンペーンはエプソン販売株式会社による提供です。＊AmazonはAmazon.com, Inc.またはその関連会社の商標です。